完了報告書

日本財団　会長　笹川　陽平　殿

報告日付：2023年4月12日

事業ID：2022006084
事業名：沖縄県浦添市における「子ども第三の居場所」
（A）コミュニティモデルの開設と運営と車両整備
団体名：（一社）まちづくりうらそえ
代表者名：代表理事　大城喜江子　印
TEL：ー
事業完了日：2023年3月31日

■契約時

事業費総額	:	18,930,000	円
自己負担額	:	0	円
助成金額	:	18,930,000	円

■事業完了時

事業費総額	:	17,585,039	円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	39	円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	17,585,000	円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	1,345,000	円	（収支計算書の青のセルの値）

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容（予定）と、事業完了時の事業内容（実績）を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容（予定）

1.「子ども第三の居場所」の開設
物件現状：公共用施設（築15年）
取得形態：行政財産使用許可（使用料免除、光熱水費のみ実費）
工事内容：各種修繕工事、中庭改築工事、備品家電購入、車両整備
施設名称：ー
面積：総面積約633.88m2（遊戯室、ホール、事務室、創作活動室、集会室など）
構造：鉄筋コンクリート造
施設概要：食事・交流・学習スペース・キッチン・プレイルームなど
定員：子ども15名～18名

(2)事業完了時の事業内容（実績）

1.「子ども第三の居場所」の開設
物件現状：公共用施設（築15年）
取得形態：行政財産使用許可（使用料免除、光熱水費のみ実費）
工事内容：各種修繕工事、中庭改築工事、備品家電購入、車両整備　　実績：キッチン改修、壁面ペンキ塗り替え、プレイルームネット設置、1階2階ベランダ防雨ネット設置、1階濡れ縁修繕、1階2階部分LED電球取り換え、シャワーヘッド取り換え、排水修繕、キッチン扉・プレイルーム倉庫扉修繕。パソコン3台、ランドセルラック、ミニテーブル、防犯カメラ、事務机・椅子、飛沫防止パーテーション、テレビ、プロジェクター、鍋類、食器・はし類、電気圧力鍋購入。車両購入。
施設名称：ー
面積：総面積約633.88m2（遊戯室、ホール、事務室、創作活動室、集会室など）
構造：鉄筋コンクリート造
施設概要：食事・交流・学習スペース・キッチン・プレイルームなど
定員：子ども15名～18名　実績：24名

(3)成功したこととその要因

業者の皆さんが好意的に工事にあたってくださったためスムーズに進んだ。

(4)失敗したこととその要因

ー

(5)事業内容詳細

・築18年の児童センターを借用して実施する居場所だったため、明るい気持ちで通ってもらえるよう古くなった壁面を明るい発色のペンキで塗装したり、キッチンやカーテンの取り換え、中庭に出て遊べるよう人工芝の設置をしたり、すのこの塗装をしたりした。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 沖縄県浦添市における「子ども第三の居場所」(A)コミュニティモデルの運営
(1)期間:2022年4月1日～2023年3月31日(週5日、平日:10時から17時まで開所、土曜:10時～17時まで開所)
(2)場所:一
(3)対象:課題を抱えた小学校低学年を中心に15名～18名
(4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子ども一人ひとりの学習習慣の定着を図りつつ、保護者支援、地域交流、チャレンジできる体験活動などを通して、子どもたちの自己肯定感の向上を図り、世帯の養育負担の軽減を試みる。また、コミュニティカフェを開き地域交流を図る中で、子育て世帯を孤立させない地域の目や行動様式を醸成させる。加えて、不登校支援、親子支援、地域ボランティアの発掘、育成を行う。

(2)事業内容の実施(完了)状況

(1)期間:開所については、当初6月1日を目指していたが、国際情勢の関係で資材の遅れが多数あり、1か月遅れての7月2日開所となった。
(2)場所:予定通り
(3)対象:課題を抱えた小学校低学年を中心に現在20名登録。おやつ承諾書を通してのおやつ支援受け入れはこちらに加え14名あり。
(4)内容:　①
毎日の活動サポート
　放課後は、児童の受け入れと遊びや活動、宿題サポートをした。
②チャレンジタイムの実施
　放課後や長期休み期間においては、子どもの経験不足を解消する体験活動実施(チャレンジタイム)　を実施した。→7月2日～3月31日まで60本以上実施実績
③コミュニティランチ会の実施
　月1回、子ども達、保護者、地域の方とランチ会をする。今年は、新型コロナウィルスに阻まれたが、12月からクリスマス会、1月防災訓練(ランチはなし)、2月色彩心理カラーキュービックカフェ(保護者交流)、(3月民謡ショー＆カレー会)を実施した。
④学習遅滞児童受け入れ
2名、学習支援。(Sさん:7月～12月、毎日1時間授業時間中)(Rさん:1月～毎日1時間授業時間中)
⑤不登校児支援
体験活動を中心に、9月～1月まで2名受け入れ。現在登校できている。
⑥火曜・木曜調理ボランティアによる弁当配布
希望を募り、現在毎食15名分配布。
⑦長期休暇時の昼食支援
長期休暇には調理ボランティア、職員ができるだけ毎日昼食を提供した。 ⑧月・水・金おやつ提供
　おやつ承諾書を保護者の方に書いてもらい、同意の上登録児童以外にも提供。準登録メンバーとして丁寧に関わり、気になる児童は登録を促している。
⑨ボランティアの発掘
コミュニティランチ会でのサポーター募集し、保護者から1名のボランティアが参加してくださった。また、中学生ボランティア1名の申し出があった、他不定期に2名の中学・高校生ボランティアもいる。保護者の方からも調理ボランティアを申し出てくださる方も現れ、今後の広がりを期待したい。

(3)成功したこととその要因

・7月2日には子ども達、地域の方々、関係するみなさんを招待し、「居場所開所セレモニー、お祭り」を実施した。550名ほどの参加の大盛況であった。当団体がこれまで培ってきた地域の方々とのネットワーク、また学校での周知もうまくできたことが成果に繋がったと考える。このイベントが周知につながり、対象児童の確保へつながった。
・チャレンジタイムにおいては、当団体別部署の事業とコラボし、約半年間で60本の企画を実施することができた。
・学習遅滞児童受け入れに関しては、毎日1時間程度学習支援をすることができ、学校での児童の学習態度も落ち着いたと学校側から話があった。児童の担任や、管理職の先生方との定期的なコミュニケーションがあったこと、また、学習を教えるということより共に学ぶ姿勢づくりがスタッフにあったため成果が出たと考える。　・不登校児童についても9月～1月に2名受け入れ実施し、体験活動を通して活動意欲を促し、保護者との密な連携や児童の通う小学校の教頭先生との面談で方向性の確認や電話での報告・相談を実施し、登校に繋げることができた。
・火曜日、木曜日は、希望があった児童に対してお弁当配布ができた(現在:15名分)。
・長期休暇時の昼食支援も、当団体別部署とも連携し、実施することができた。
・月水金のおやつ提供は、児童とのコミュニケーションを図るツールとなっている。また登録していない児童もいるが、おやつ承諾書提出してもらうことで、一緒に食べることができた。　・小学校の校長先生との密な連携や、毎月学校・子ども園・近隣学童・浦添市てだこ未来応援員の方との五者会(地域ミニ要対協)や、学校・子ども園・てだこ未来応援員・中学校区CSWの方と、ミニ要対協のようなケア会議を持ち、気になる世帯の情報などを共有、それぞれの役割分担を明確にし計画的に支援を進められたこともよかった。　・地域連携としては、当団体別部署を中心に防災訓練実行委員会を地域の主要なメンバー(自治会・学校・子ども園・学童・CSW・包括支援センター・当居場所)と結成し約半年かけて計画を練り、児童の防災キャンプと防災訓練を1月に実施できた。地域コミュニティの基盤づくりに大きな成果をもたらしていると考える。
・10月からは、小学校区CSW、地域ボランティアの会、小学校と協力し、那覇市の公民館に「豆腐づくり」を学び、1月に地域のみんなが集うコミュニティファームを開墾した。子どもも大人もみんなで大豆を育て、育てた大豆で豆腐を作る計画を進めていっている。

・ボランティアは大人だけではなく、これまで当団体別部署を利用してきた児童が中学生や高校生の先輩になり、来れる時間にふらっと宿題のサポートをしていることがみられる。当団体別部署がこれまで児童との信頼関係を築いてきた成果がここに表れているのではないかと考える。
・「地域の子どもは地域で育てる」ことを目標に、居場所の子／当団体別部署の子、とわけることはせず、全職員で来館するすべての児童について情報共有、対応についての相談などを密にとっているため、手厚い支援、サポートが可能となっている。また、小学校、こども園、学童など近隣の教育機関・福祉機関も五者会議を通して地域の子どもたちの情報共有しているため、関わる大人みんなが地域の子ども達を大切に育てていく土壌が少しづつ作りあげられてきていると感じる。この状況が、子どもたちにとって「安心できる地域」「自慢できる地域」へとつながっているように思える。　　・コミュニティランチ会においては、土曜に子ども達、保護者、地域の方を集めて実施予定も新型コロナウイルスに阻まれ、当初の予定通りには実施できなかった。しかし、12月クリスマス会にて、児童、保護者、地域住民とイベントを実施できた。1月には防災訓練、2月色彩心理カラーキューブックカフェ、3月民謡ショー＆カレー会が実施できている。今後も定期的に実施し地域のつながりを深めるきっかけづくりになればと思う。

(4)失敗したこととその要因

–

(5)事業内容詳細

別紙参照

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況：

(1)助成契約書記載の目標

(1)2022年6月1日までに「子ども第三の居場所」コミュニティモデルを開設する
（2）運営開始までに関係各所（自治体・学校・SSWなど）への事業の説明会を実施する
（3）2023年3月31日までに、1日平均利用児童数を18名にする
（4）コミュニティランチ会を通して、ボランティア等地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会を提供
（5）子どもの経験の不足を解消を目指すイベントを事業期間内に約10回企画する
（6）利用児童について、学習週間の定着、宿題の提出率の向上、食事をとる回数の増加、歯磨きをする回数・時間の増加、身長・体重の増加を達成する

(2)目標の達成状況［**700文字以内**］

入力文字数	407	文字数チェック	OK

（1）開設は7月2日となった。（2）運営開始までに12の関連機関・関係者への事業説明・説明会を実施できた。（3）平均利用児童18名以上となっている。（4）コミュニティランチ会を3回実施。会を通して、ボランティアなどの地域住民との関係構築、多世代交流機会を提供することができた。行政・学校との関係構築については、コミュニティランチ会というよりは、それぞれとの面談・会議などで幾度となく顔を合わせ、状況報告・共有する中で徐々に関係構築しているところである。（5）子どもの経験不足を解消を目指すイベントについては、当団体別部署の協力もあり60以上実施できた。別紙参照。（6）利用児童の成長目標については、2月28日～3月10日に保護者面談にてすべてにおいて良好とのアンケート結果をいただいている。この結果や要望を踏まえ、さらに保護者の関係を密にしながら、保護者支援を続けることによって、児童の成長へも寄与していきたい。

※700文字を
文字数チェ
入力のセル

3.事業実施によって得られた成果

(1)2022年6月1日までには間に合わなかったが、7月2日に「子ども第三の居場所」コミュニティモデルを開設することができた。セレモニー＆おまつりには、550名以上の参加者があり、告知できた。
（2）運営開始までに関係各所（自治体・学校・SSWなど）12か所への事業の説明会を実施することができ協力体制の基盤ができた。
（3）2023年3月31日までに、1日平均利用児童数を18名以上にすることができた
（4）コミュニティランチ会を通して、ボランティア等地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会を提供できた
（5）子どもの経験の不足を解消を目指すイベントを事業期間内に60回以上企画することができた
（6）利用児童について、学習週間の定着、宿題の提出率の向上、食事をとる回数の増加、歯磨きをする回数・時間の増加、身長・体重の増加を達成することができた。今後、ボランティアの発掘・育成も実施しつつ、最大の目標である子育て世帯を孤立させない地域の目や行動様式を醸成させ、「地域の子どもは地域で育てる」実践が目に見えてくるような地域づくりを行いたい。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

・スタッフが入れ替わるため丁寧な研修をして受入れの準備をしていく
・利用してほしい児童や保護者との丁寧なコミュニケーションをとり、ニーズにこたえていく
・利用する子どもたちの自由度と、秩序のバランスの取り方について職員で共通理解をはかり対応していく
・寄付獲得増のための情報発信と会員制度確立
・沖縄県内の他の拠点との交流と視察でスタッフの学びを増やす
・学生ボランティアとの連携をとるため職員研修や日本財団の提供してくださる研修を受講していただき共通認識を図る
・地域ボランティアの発掘、育成、継続

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

1，事業完了報告書
2,建築物・機器（写真・案内パンフレット）
3,車両（写真等）

(2)事業完了時の成果物名称

1，事業完了報告書
2,建築物写真（工事報告書）、機器写真一覧表、案内パンフレット（100部ほど）、セレモニーおまつり・事業案内チラシ（660部ほど）、利用案内（関係者・入所保護者へ40部ほど）
3,車両写真

(3)未作成となった要因

ー

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

https://fields.canpan.info/report/detail/28992